No.1

三島市地震防災マップ

Mishima City Earthquake Hazard Map

保存版 青木、新谷、泉町、一番町、壱町田、大宮町、加茂川町、加屋町、川原ヶ谷の一部、北田町、清住町、幸原町、寿町、栄町、沢地の一部、芝本町、末広町、大社町、玉川、中央町、鶴喰の一部、富田町、中の一部、中田町、西本町、西若町、東壱町田、東町、東本町、日の出町、平田、広小路町、藤代町、文教町、本町、緑町、南田町、南町、南二日町、南本町、三好町、谷田の一部

阪神・淡路大震災や東日本大震災などのこれまでの震災では地震発生直後の住民同士による助け合いによって多くの命が救われ、発災時における自助・共助の重要性が明らかになりました。「自らの生命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」ことを念頭に、地域の防災力を向上させましょう。

お問い合わせ先 三島市役所 都市整備部 建築住宅課
〒411−8666 静岡県三島市北田町4−47 TEL 055−983−2644
http://www.city.mishima.shizuoka.jp/

初版発行 平成26年3月
改訂 平成29年2月

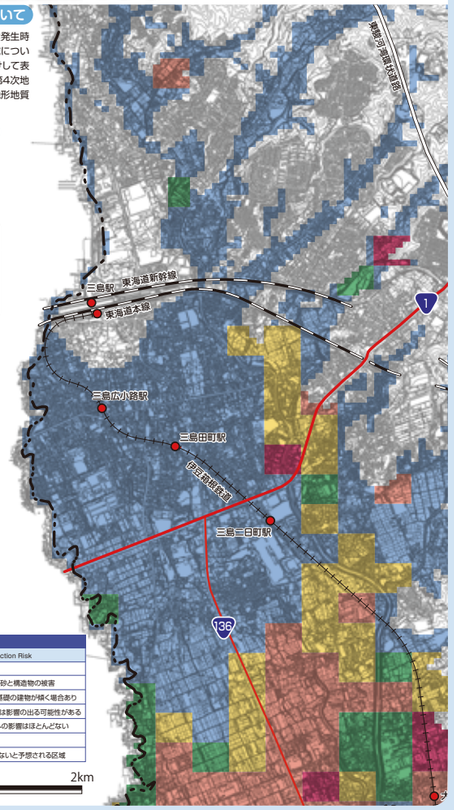
液状化危険度マップ

液状化危険度マップについて

この「液状化危険度マップ」は、地震発生時に「液状化現象」が予想される地域について、現象が発生する可能性を色分けして表示したもので、静岡県が公表した「第4次地震被害想定」で想定された結果と地形地質資料を参考に、作成しました。

液状化しやすい場所

液状化しやすい場所は、埋立地、干拓地、昔の河道を埋めた土地などが挙げられます。このような土地であるかどうかは、その成り立ちを知ることで概ね把握することができます。詳しいことは専門家に相談して下さい。



凡 例 Legend

液状化危険度 Rank of Liquefaction Risk		
	PL値 (表示上限値含む)	
	35以上	非常に激しい液状化、大規模な噴砂と構造物の被害
	20−35	激しい液状化、噴砂が多く、直接基礎の建物が傾く場合あり
	10−20	液状化は中程度、構造物によっては影響の出る可能性がある
	5−10	液状化の程度は小さい、構造物への影響はほとんどない
	0− 5	液状化はほとんどなく、被害なし
		岩盤等の地盤で液状化の発生がないと予想される区域

0 1 2km

大地震による災害への備え

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいことです。
地震がおきても「あわてず、落ち着いて」行動する為に事前の備えと地震発生時およびそれ以降の行動パターンを覚えておきましょう。

事前の備え

いざという時に身を守り、困らないためにも
日頃からの備えが大切です。

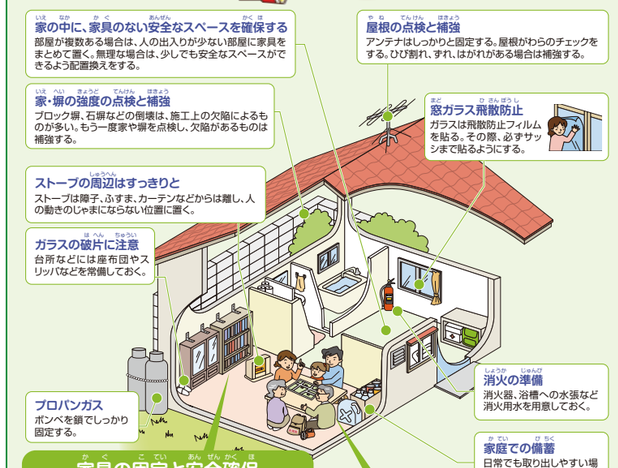
備蓄品

- ティッシュペーパー ウエットティッシュ
- ロープ
- 工具セット
- ランタン (停電時の照明)
- 携帯トイレ
- ペットのえさ
- 給水ポリタンク (給水時便利)
- ビニール袋 (雨具・敷物・トイレ)
- 水のいらない シャンプー
- カセットコンロ (煮炊きできる)
- サランラップ

非常持出品

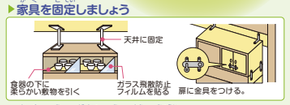
- 食糧品 (備蓄は7日分)
- 飲料水 (備蓄は1人1日最低3リットル)
- 粉ミルク
- 現金・貴重品
- 厚手の手袋
- 懐中電灯・携帯ラジオ
- ライター・マッチ
- 救急医療品 常備薬
- お薬手帳
- 生理用品
- 防寒衣 (上下)
- 衣服 (長袖・長ズボン)
- 寝袋
- 携帯カイロ
- 長靴
- 毛布

積極的に防災訓練に参加しましょう。

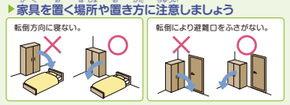


家具の固定と安全確保

▶家具を固定しましょう



▶家具を置く場所や置き方に注意しましょう



家族会議

家族があわてずに行動できるように、ふだんから次のようなことを話し合いそれぞれの分担を決めておきましょう。

- 家の中でどこが一番安全か。
- 昼の場合、夜の場合の分担と避難方法。
- 避難する時は、だれが何を持ち出すか。
- 非常持ち出し袋はどこに置くか。
- 避難場所、避難路はどこにあるか。
- 救急医療品の点検。
- 家族間の連絡方法と最終的におち合う場所はどこにするか。

各種補助制度

三島市では、住宅や建築物の耐震化を促進するため、さまざまな補助制度を用意しており、以下に、ご紹介します。まずは耐震診断により建築物の耐震性を知り、必要な耐震改修等の措置をとることが重要です。

1. **わが家の専門家診断事業** 木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で耐震診断が受けられる制度です。窓口・電話及び市ホームページ電子申請により申し込みを受け付けています。
2. **木造住宅補強計画策定事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅を対象に三島市から専門家を派遣し、無料で補強計画の策定を行います。
3. **既存建築物耐震診断事業** 木造住宅の場合は耐震補強工事を行うための耐震補強計画の作成費を、その他の建築物については耐震診断費用に要する経費の一部を助成します。
4. **木造住宅耐震補強助成事業** 木造住宅の耐震補強工事に要する経費に対し助成します。
5. **ブロック塀等耐震改修促進事業** ブロック塀等の撤去にかかる費用の一部を補助します(撤去事業)。また、地域防災計画で設定されている緊急輸送路、避難路又は避難地等に面するブロック塀等を、安全なものに改善する費用の一部を補助します(改善事業)。
6. **家具転倒防止事業** いつ起こるかわからない巨大地震への対策として、家具の固定をお願いします。対象となる世帯に5品までの家具固定器具の取付けにかかる費用を市が負担します。
7. **耐震シェルター整備事業** 高齢者等世帯が居住する木造住宅に耐震シェルターを設置する場合、耐震シェルターの設置に要する経費に対し助成します。

地震発生時

落ち着いて行動する為に
行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生

[あわてない]

●落ち着いて行動する。

[身を守る]

●机の下に入る。
●座布団などで頭を守る。
●窓や家具から離れる。

お店や乗り物の中にいる場合

[係員、乗務員の指示に従う]

●避難時にエレベーターを使用しない。

[天井、荷物棚からの落下に注意する]

●エレベーターの中では、すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りる。

1〜2分後 身の安全を確保

[火を消す]

●ガスやストーブの火を消す。
●火災を消火器等で消す。

[スリッパ・靴等を履く]

●家の中でもガラス片で怪我をすることがある。

[家族の安全確認]

●大声で家族の安否の確認を行う。

[避難用出口の確保]

●戸や窓を開ける。

土砂災害等の恐れがある場合はすぐ避難

3〜5分後 隣近所の助け合い

[テレビ・ラジオで正しい情報を入手する]

[近所の人の安否確認]

●「大丈夫」という場合には、黄色いハンカチをドアノブに付ける。

[非常持出品の準備]

●協力して救助活動を行う。

[火災の消火活動]

●大声で火事を知らせる。
●協力して消火活動を行う。

家屋倒壊の恐れがある場合は避難

5分〜数時間後

[子どもを迎えに]

●家を出る前に出火防止のためにガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。

[一時避難地に集合]
(地区集会所・近くの公園等)

[負傷者への応急手当]

●協力して救護活動を行う。

[建物に閉じ込められた人の救助]

●協力して救助活動を行う。

運転中は

●キーをつけたまま道路の端に停めて避難する。

屋外では

●ブロック塀や門柱に注意
●ガラスや看板の落下、切れて垂れ下がった電線に注意。
●地下街には約60mおきに出口があるので、あわてず大きな柱や壁に身を寄せて揺れがおさまるのを待つ。

余震に注意

協力して助け合おう!

事後

助け合いの心で
災害を乗り越えましょう。

数時間〜3日程度 状況に応じて冷静に判断

自宅が無事 → 自宅で生活する場合

[家の被害を点検する]

[足元の片付けをする]

[備蓄品で生活する]

●数日間はライフラインが停止することがある。

自宅が焼失、全半壊 → 避難所に移動する場合

[ガスの元栓を閉めブレーカーを切る]

[避難所の開設状況も踏まえ、避難所を確認する]

[近所どうし協力しあって避難所へ]

[危険な場所から離れる、近づかない!]

[徒歩で避難する]

[荷物は最小限に]

避難所では

●自主防災組織を中心に行動する。
●集団生活のルールを守る。
●助け合いの心で。

避難の時の服装

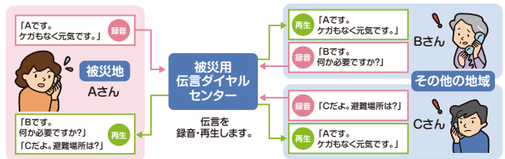
頭部は、防災ずきんやヘルメットで保護する。
服装は長そでを着用。
手袋を着用し手にはなにももたない。
長ズボンを着用。
底の厚い、丈夫な靴。

[要配慮者の支援・協力]

●高齢者や障がい者など要配慮者の支援・協力は、積極的に行いましょう。

災害伝言ダイヤル「171」

地震など大規模な災害が発生した時、安否の確認や見舞い、問い合わせなどの電話が被災地に集中し、電話がつながりにくい状況になってしまいます。災害用伝言ダイヤル「171」はこのような災害発生時に、被災地内の電話番号を使って、安否等の情報を音声により登録・確認出来るサービスです。



伝言の録音方法

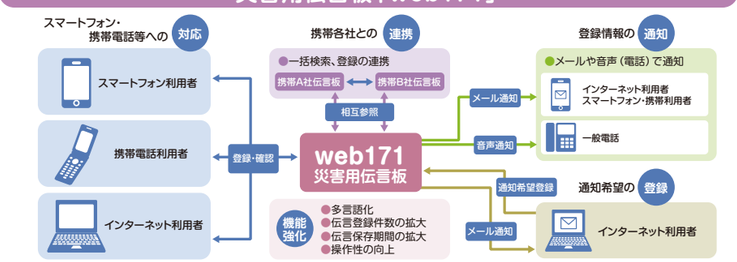
171 にダイヤルする
録音の場合 1
XXXX-XX-XXXX
市外局番からダイヤルしてください。

伝言の再生方法

171 にダイヤルする
再生の場合 2
XXXX-XX-XXXX
市外局番からダイヤルしてください。

利用可能な端末	蓄積伝言数	録音時間	伝言保存期間
固定電話、公衆電話、携帯電話、PHS (ダイヤルは従来通り)	1電話番号あたり1〜10伝言	1伝言30秒以内	2日間(48時間:自動消去)

災害用伝言板「web171」



緊急速報メール(エリアメール)配信について

三島市では、携帯電話向け災害情報伝達システムについて、株式会社NTTドコモが提供する緊急速報「エリアメール」、KDDI株式会社およびソフトバンクモバイル株式会社が提供する「緊急速報メール」の配信を行っております。受信可能な機種や設定方法など、詳しくは携帯電話購入店にお問い合わせいただくか、各社のホームページをご覧ください。

緊急速報メールとは 気象庁が配信する「緊急地震速報」や「津波警報」、国・地方公共団体が配信する「災害・避難情報」などを住民に一斉にお知らせするサービスです。